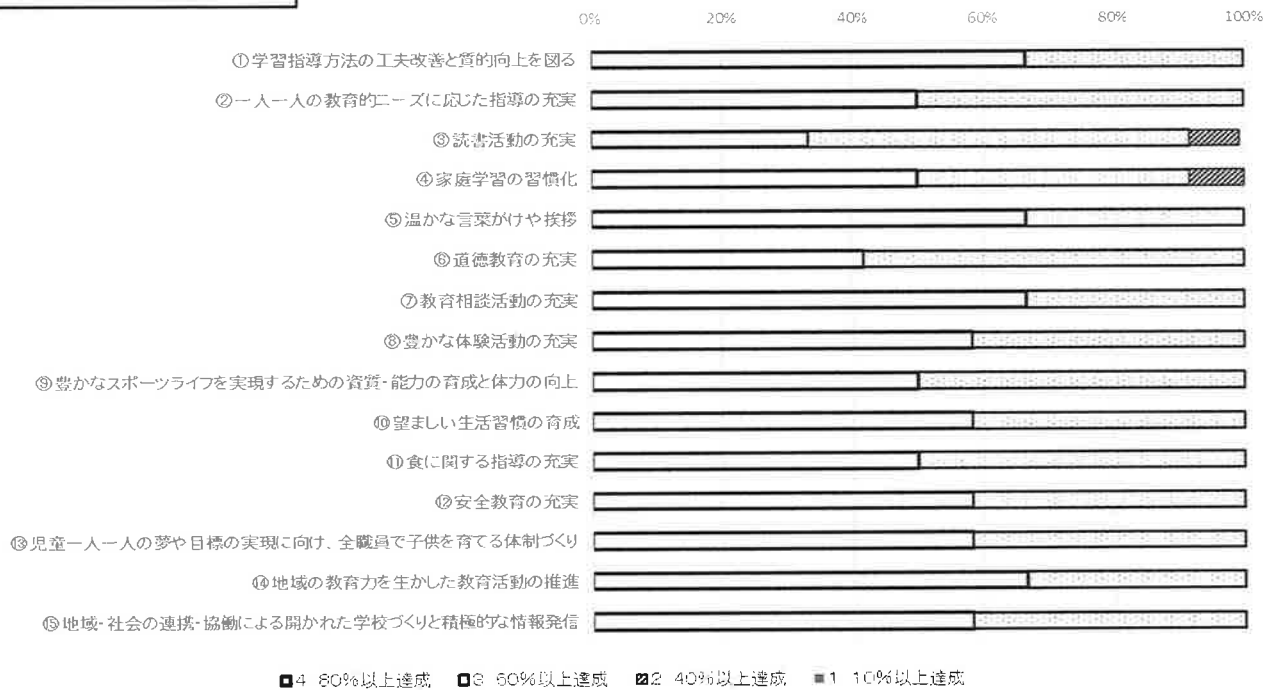


教職員アンケート



- ・「②一人一人の教育的ニーズに応じた指導の工夫」については、前期に比べ20%増えている。改善された理由としては、学校として講師を招いたり、模擬授業をしたりして校内研修を行って学習指導方法の改善に努めるなど、主体的な学習について、さらに力を入れて取り組んだことが考えられる。
- ・「③読書活動の充実」については、約9割が肯定的な評価をしている。校内では、各クラスで読んだ冊数を一人一人が記録する「読書の木」や読んだ本の紹介をする「読書紹介カード」、前・後期でたくさん読んだ児童を表彰する「読書がんばり賞」などの取り組みをしてきたが、保護者は、約半分ほどしか肯定的な評価をしていない。本に親しむ活動をさらに活発にする手立てとして、一人一人が自分で読む量の目標を決めて取り組むことをベースに、「親子読書」の呼びかけをするなど、家庭でもより本を手取るようにしていきたい。
- ・「⑤温かな言葉かけや挨拶」では、特によくできている（8割以上達成）と答えた割合が、前期15%から66%に増えてなっていることから、校内で児童の挨拶の定着がすすんでいることがわかる。これからも、保護者とともに子供たちの思いやりの心を育てていく教育活動を行っていきたい。
- ・「⑦教育相談活動の充実」「⑬児童一人一人の夢や目標に実現に向け、全職員で子供を育てる体制づくり」では、評価が100%となっている。毎月行う教育相談アンケート等に加え生徒指導主任を中心とした校内体制を整えることで、早期発見・早期対応に努めているが、子どもの中には、困ったことを相談できる人や安心できる場所がないと感じている児童も存在している。学校生活の基盤は学級である。現在、教育現場も大幅な世代交代が進んでおり、本校でも若手育成という課題である。だからこそ、保護者をはじめ、地域の方からのご意見やアイデアを伺い、まず、学校が安心できるようにしていくことも必要である。若手の教師は、安心できる学校にするために、基盤である学級経営のノウハウを、学びたいと考えているので、学校内外の研修や人材を活用して、若手の教育力をさらに伸ばしていきたい。そして、これまで以上に子供たちの様子に気を配り、一人一人が、安心して学校生活を送れるように努めていく。
- ・「⑮地域社会の連携・協働による開かれた学校づくりと積極的な情報発信」については、肯定的な評価が100%となっている。前期の反省をもとに、学校の様子を、より早くより分かりやすく伝えるようと努めてきたことで保護者への伝達が改善されてきたと考えるが、保護者は14%が「あまり当てはまらない・当てはまらない」と答えていることをふまえ、引き続き、開かれた学校づくりをめざして、積極的な情報発信に努めたい。